

1966年度事業報告

1. 主な会合

- (1) 5月11, 12, 13の3日間、鉄道技術研究所において、1966年度総会および第19回研究発表会を開催した。研究発表は一般が28件、今年度より設けた特別テーマのTORは29件、特別講演は3件で、他にパネルディスカッション(都市交通の問題点をめぐって)をおこなった。見学会は特に日を定めないうで研究発表会の間に鉄道技術研究所の研究施設を見学した。
- (2) 11月10, 11日、広島銀行本店で、第20回研究発表会を開催した。研究発表は一般50件、特別テーマのスケジュールリング17件で、特別講演は3件であった。翌12日は見学会、東洋工業を午前中見学し、午後は宮島へ行った。
- (3) 8月1日虎の門共済会館でアメリカOR学会会長ウォルシュ博士を迎えて、講演会および夕食会を開催した。

2. 刊行物

「経営科学」第9巻3,4号、第10巻1,2号を発行した。「JORSJ」Vol.8 No.3,4 Vol.9 No.1を発行した。

3. 国際協力

(1) IFORS

第4回 IFORS は8月29日から9月2日までアメリカのMITで開催され、日本からは15名の代表が参加し9件の研究発表を行なった。なおIFORSの次期副会長として東工大の松田武彦教授が推せんされた。

(2) IAOR

前年度に引続き、IAORのための国内OR文献の抄録活動、ならびにIAORの国内配布に協力した。

4. 松永賞候補者の推せん

松永賞候補者の推せんに協力した。

5. 研究会活動

国鉄より「線路増設時期を決定する諸要因に関する研究」の委託をうけたので委員会を構成し研究を行ない、研究報告を提出した。

6. 講習会の開催

高速道路調査会との共催のもとに、土木・建設

関係者むけのPERT—CPMの講習会を大阪の日本経済新聞社ホールにおいて、9月26—28日の3日間開催した。参加者は140名であった。

7. 支部活動

九州支部、中国四国支部が5月に発足し、東北支部が42年度発足をめざして準備を進めている。

8. 会員の状況

種 別	通 常 員	学 生 員	賛 助 員
1965 年 度 末	820	43	100
1966 年 度 入 会	270	27	12
学 生 より 移 行	19	19	0
退 会	-34	0	-9
整 理	-36	-2	0
1966 年 度 末	1039	49	103

貸借対照表

1967年3月31日現在

借 方		貸 方	
現 金	985	前期繰越金	1,843,540
振替貯金	5,126	前 受 金	107,300
小切手払口座	341,514	未 収 金	293,000
普 通 預 金	1,553,212	当期運営残高	164,018
当 座 預 金	7,421		
未 収 金	362,800		
過年度未収金	136,800		
合 計	2,407,858	合 計	2,407,858

会則の一部改訂および補足

条	現 行	改 正 案
第12条	2)副会長 4名以内 6)評議員 50名以上 100名以内	2)副会長 7名以内 6)評議員 150名以内 附則 ホ、この会則は 1967年5月17日より 施行する。 1967年5月17日一部 改訂した。

収支計算書

自1966年4月1日
至1967年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊行費	1,449,400	賛助会費	2,720,000
大会費	792,185	入会金	152,600
編集費	265,811	会費	1,968,908
通信費	510,112	IFORS費	205,120
会合費	209,802	雑収入	1,371,745
印刷費	319,807		
事務費	903,542		
消耗品費	75,536		
旅費交通費	247,445		
手数料	45,360		
研究会費	682,822		
IFORS費	206,503		
支部費	270,600		
雑費	143,820		
会費徴収不能	131,600		
小計	6,254,355	小計	6,418,373
当期運営残高	164,018		
合計	6,418,373	合計	6,418,373

日本オペレーションズ・リサーチ学会
東北支部規則

(名称)

第1条 本支部は日本オペレーションズ・リサーチ学会東北支部と称する。

第2条 本支部の事務所は仙台市におく。

(目的)

第3条 本支部は日本オペレーションズ・リサーチ学会（以下本部と称する）の目的達成に必要な地域活動の推進をはかる。

(事業)

第4条 本支部は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。オペレーションズ・リサーチに関する研究会、講演会の開催、図書文献の収集保存、印刷物の作成配布等。

(会員)

第5条 本支部は東北地方に在住する本部会員をもって構成する。

(役員)

第6条 本支部に次の役員をおく。

- (1) 支部長 1名
(2) 副支部長 2名
(3) 評議員 若干名
(4) 幹事 “
(5) 監事 1名

第7条 支部長、副支部長、評議員、監事は支部総会において会員の互選により定める。幹事は支部長が会員中より委嘱する。

第8条 役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第9条 支部長は支部を代表し支部の業務を総括し支部会議を招集する。

第10条 副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるときはその職務を代行する。

第11条 評議員は支部長の諮問に応ずる。

第12条 幹事は支部の事務を行なう。

第13条 監事は支部の会計を監査する。

(運営)

第14条 支部は本部の庶務、刊行物、会計に関する内規の適用をうける。

(会議)

第15条 支部会議は支部総会および支部役員会とする。

第16条 支部会議の議長は出席会員から選出する。

第17条 支部総会は年1回4月にこれを開催する。ただし役員会が必要を認めるときおよび支部会員総員の1/3以上が要請するときは臨時総会を開催する。支部総会は次の事項を審議し、決議事項はすべて本部に報告し承認をうけるものとする。

- (1) 役員を選出
(2) 事業報告および収支予算
(3) 事業報告および収支決算
(4) 支部規則の作成変更
(5) その他重要な事項

第18条 支部役員会は必要の都度開催する。

第19条 支部の会議における議決は特に定める場合を除き出席者の過半数の賛成による。替否同数の時は議長がこれを決定する。委任状による決議への参加を認める。

(会計)

第20条 本支部は本部からの交付金等をもって経費にあてる。

第21条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(支部規則の変更)

第22条 この支部規則は支部総会で出席者の%以上の賛成を得、かつ本部理事会の承認を得て変更することができる。

(付則)

第23条 本支部規則は昭和42年5月17日より施行する。

1967年度事業計画

1. 研究発表会

春秋2回開催し、春季は東京において総会をかねておこない、秋季は九州地方において開催する。

2. 刊行物

「経営科学」及び「JORSJ」を各4回発行する。創立10周年記念特集号を発行する。名簿の改訂版を発行する。

3. 国際協力

- (1) IAOR に協力する。
- (2) 海外より来訪するOR専門家と接触の機会をつくる。
- (3) ORAW (Operations Research Around the

World Meetings) を8月14日京都において、17,18日東京で国際的なOR研究発表会を開催する。

4. 研究会活動

若干の分科会を設置し、これを統括するために専門委員会をおく。専門委員会の運営については今後十分に検討する。

5. 支部活動

東北支部が発足し、活動をはじめ。

6. 普及活動

講習会その他適当な普及活動を行なう。

7. 受賞すいせん活動

松永賞その他受賞候補すいせんに協力する。

8. OR学会大西記念文献賞

本学会では、かねてよりOR研究奨励のため、OR関係の優秀な論文に賞を与えることを検討していたが、この度名譽会員大西定彦氏の御好意により基金が得られたので、これをOR学会大西記念文献賞として選考委員の選考に基づき、理事会の承認を経て賞を与えることにした。

1967年度予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
賛助会費	3,300,000	刊行費	2,900,000
入会費	300,000	大会費	800,000
会費	3,240,000	編集費	532,000
IAOR費	92,000	通信費	1,020,000
受託研究費	600,000	会合費	231,000
雑収入	1,044,000	印刷費	384,000
賞金積立金	400,000	事務費	1,159,000
繰越金	2,007,000	消耗品費	83,000
		交通費	154,000
		手数料	50,000
		研究会費	117,000
		受託研究費	510,000
		I F O R S 費	240,000
		支部費	368,000
		大西賞	100,000
		雑費	160,000
		賞金積立金	300,000
		退職引当金	346,000
		予備費	1,529,000
計	10,983,000	計	10,983,000

各支部 昭和41年度事業報告及び42年度予算

(昭和41年4月1日～昭和42年3月31日)

中部支部

1. 総会および運営協議委員会

(1) 昭和41年度定期総会

- 5月27日 17.30～18.30 於中産連ビル
 議題 1. 昭和40年度事業ならびに収支決算報告
 2. 昭和41年度事業計画ならびに収支決算審議
 3. 役員改選

(2) 運営協議委員会

- 5月18日 16.00～19.00 於中産連ビル
 議題 1. 昭和40年度事業ならびに収支決算報告と承認
 2. 昭和41年度事業計画ならびに収支予算審議
 3. 役員改選

2. OR研究会

- 4月例会 4・22 18.00～20.00 於中産連ビル
 テーマ 「アンケートの方法について」
 発表 電通名古屋支社
 マーケティング部長 大脇 錠一
- 5月例会 5・18 18.30～20.30
 テーマ 「PERTについて」
 発表 中部電力企画部 河合 基
- 6月例会 6・17 18.30～20.30
 テーマ 「PERTについてその2」
 発表 日本IBM名古屋営業所
 システム課 戸畑 吉孝
- 7月例会 7・15 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「設備投資の評価基準について」
 発表 日本碍子システム課
 大久保 満富
- 8月例会 8・19 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「正規性について」
 発表 名古屋大学教授 白尾 恒吉
- 9月例会 9・16 18.30～20.30
 テーマ 「バスターミナルにおける到着制御について」
 発表 名古屋鉄道合理化研究室
 部長 村手 光彦
- 10月例会 10・28 18.30～20.30 於中産連ビル

テーマ 「IR (情報検索) について」
 発表 日立システムエンジニアリング第一技術部サービス課長代理 住友 博

11月例会 11・25 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「建設工事の日程計画」
 発表 東海電気通信局経営調査室 城戸 利 熙

12月例会 12・15 14.00～18.00 於中産連ビル
 テーマ 「OR諸問題について」
 発表 インデアナ大学教授

George j Minty
 通訳 名古屋大学教授 飛田 武幸
 1月例会 1・20 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「論理ゲーム」

発表 名古屋大学教授 小野 勝次
 2月例会 2・17 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「事業所の配置問題」
 発表 中部電力企画部 田中 康平

3月例会 3・24 18.30～20.30 於中産連ビル
 テーマ 「隔月検針制度について」
 発表 東邦瓦斯機械計算課 藤波 健

3. 会 務

1. 賛助会員現況

41.3.31現在 16社18口
 41.4～42.3 までの入退会
 入会 ナシ
 退会 1社1口<萱場工業>
 ※よって42.3.32 現在15社17口 (34万円)

2. OR研究会

41.3.31現在 9社21口
 41.4～42.3までの入退会
 入会 3社5口
 中日能研 1口
 電通名古屋支社 1口
 中京電機 1口
 ※日立システムエンジニアリング 2口追加
 退会 ナシ
 ※よって42.3.31現在 12社26口 (15.6万円)

収 支 決 算 書

自 昭和41年 4月 1日
至 昭和42年 3月 31日

日本OR学会中部支部
O R 研 究 会

		学 会 支 部	O R 研 究 会	合 計
①	繰 越 金	52,271	149,829	202,100
収 入	会 費 収 入	360,000		360,000
	同, 本部送金 (会費収入×79%)	△284,400		△284,400
	(差 引 支 部 収 入)	75,600		(75,600)
	(研 究 会 収 入)		(176,700)	(176,700)
	(前 期 分 会 費 収 入)	(50,000)		(50,000)
	(雑 収 入)	(5,195)	(3,464)	(8,659)
②	当 期 計	(130,795)	(180,164)	(310,959)
③=①+②	合 計	(183,066)	(329,993)	(513,059)
支 出	(旅 費 交 通 費)	(27,680)	(8,280)	(35,960)
	(会 議 会 合 費)	(9,600)	(16,910)	(26,510)
	(研 究 会 費)		(26,075)	(26,075)
	(会 場 費)	(3,150)	(34,850)	(38,000)
	(印 刷 費)		(29,830)	(29,830)
	(通 信 費)	(6,200)	(19,522)	(25,722)
	(事 務 費)	(12,000)	(12,000)	(24,000)
	(消 耗 品 費)	(3,800)	(2,000)	(5,800)
	(雑 費)	(7,200)	(2,984)	(10,184)
	④	当 期 計	(69,630)	(152,451)
当期収支差引②—④		(61,165)	(27,713)	(88,878)
次期繰越③—④		(113,436)	(177,542)	(290,078)

貸 借 対 照 表

昭和42年 3月 31日現在

科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	6,475	O R 学 会 繰 越 金	52,271
銀 行 預 金	284,503	O R 研 究 会 繰 越 金	149,829
		当 期 O R 学 会 残 高	61,165
		当 期 O R 研 究 会 残 高	27,713
合 計	290,978	合 計	290,978

昭 和 42 年 度 事 業 計 画

(昭和42年 4月～日昭和43年 3月)

1. 会 議
 - (1) 定期総会 期首 1回
 - (2) 運営協議員会 回 2
2. 事 業

O R 研 究 会 4月～翌年 3月 毎 月 1回

※実施例を中心とした研究討議

特別ゲストをまねいての研究懇談会

部 昭 和 42 年 度 収 支 予 算

収 入			
賞 助 会 費	17口×30,000	510,000円	
本 部 送 金 額	510,000×79%	(△402,900)	
差 引 支 部 会 費	510,000×21%	107,100	
支 出			
旅 費 交 通 費		30,000円	
会 議 会 合 費		12,000	
研 究 会 (補 助 金) 費		25,000	
会 場 費		5,000	
印 刷 費		9,000	
通 信 費		7,000	
消 耗 品 費		5,000	
事 務 費		12,000	
雑 費		2,100	
			107,100円

O R研究会昭和42年度収支予算

収入		
会費	26口×6,000	156,000円
支出		
旅費交通費		9,000円
会議会合費		20,000
研究費		20,000
会場費		35,000
印刷費		35,000
通信費		20,000
消耗品費		3,000
事務費		12,000
雑費		2,000
		156,000円

昭和42年度役員

支部長 小野 勝次 名古屋大学教授
 副支部長 西沢 勇 中部日本新聞社(株)取締役
 運営協議員 佐藤 芳郎 中部電力(株)企画部長
 松木 進 生産性中部地方本部事務

中国四国支部

事業報告

- 41年8月13日広島銀行本店において、設立総会および設立記念講演会を開催した。終了後万象園で記念懇親パーティを行った。
- 41年11月10日、11日広島銀行本店で秋季研究発表会が開催された。研究発表は一般50件、特別テーマのスケジューリング17件で、特別講演は3件であり、約300名参加し盛会であった。翌12日は見学会で東洋工業を午前中見学し、午後は宮島へ案内した。
- 42年3月16、17日開催の生産性中国地方本部主催ORセミナーに協賛した。
- 運営協議会は、上記(2)の準備のため実行委員会として3回(41.8.24, 9.6, 11.9)および事業報告・事業計画審議のため1回(42.5.10)開催した。
- 会員

	通常会員	学生会員	賛助会員
設立時	86	2	10
41年度末	108	2	11

局長

依田 浩 名古屋工業大学教授
 白尾 恒吉 名古屋大学教授
 飛田 武幸 名古屋大学教授
 本告 光男 中部電力(株)企画部調査
 役
 村手 光彦 名古屋鉄道(株)電子計算
 センター部長
 大脇 錠一 電通(株)名古屋支社マー
 ケティング部長
 (事務局担当)天野 菊彦 中部産業連盟(社)理事
 監 事 梅田 俊雄 中部火力工事(株)社長
 (交渉中) 東海テレビ放送(株)

O R研究会運営幹事

森 葆 名古屋鉄道(株)機械計算
 室課長
 榎本 久徳 中部電力(株)企画部
 武藤 博道 電通(株)名古屋支社マー
 ケティング部
 (庶務担当) 川出 顕雄 中部産業連盟業務部

昭和41年度事業会計報告

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
設立準備金	30,000	通信費	16,270
本部交付金	46,200	印刷費	13,400
		設立総会講師謝礼	13,000
		会場費	10,000
		印鑑作製費	4,640
		封筒代	3,620
		アルバイト代	1,500
		事務費	12,000
		雑費	700
		次期繰越	1,010
計	76,200	計	76,200

昭和41年度日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部事業報告を監査した結果、適正である事を認めます。

昭和42年5月19日

日本オペレーションズ・リサーチ学会中国四国支部

監事 田中 琢磨
監事 広瀬 嘉道

日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国四国支部

昭和42年度事業計画

1. 会議

総 会 1回
運営協議会 2回

2. 事業

講演会 2回
研究会 随時

昭和42年度収支予算

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	1,010	通 信 費	10,000
本部交付金	74,000	会 合 費	5,000
		印 刷 費	10,000
		事 務 費	12,000
		講 演 会 費	20,000
		研 究 会 費	15,000
		雑 費	3,010
計	75,010	計	75,010

役 員 名 簿

支 部 長 渡辺喜一郎 (中国電力)
副 支 部 長 柴田 隆史 (広島大学)
運 営 協 議 員 荒川 正介 (東洋工業)
(50音順) 石田 甫 (宇部興産)
北林 琢男 (広島大学)
木村 三郎 (中国電力)
新宮 哲郎 (広島大学)
広瀬 嘉道 (三井石油化学)
福田 治郎 (広島大学)
松富 武雄 (近畿大学)
松野 五郎 (松山商科大学)
山本 昌 (日新製鋼)
山本 純恭 (広島大学)
監 事 田中 琢磨 (神戸製鋼所)
松繩 淳 (国鉄中国支社)

九州支部

I 41年度事業報告

1. 主な会合

(1) 第1回支部総会

日時 41.7.8(金)11時~12時

場所 福岡 生産性九州地本セミナー室

議題 ①支部設立の経過報告

②支部規則, 役員1966年度事業計画・
収支予算の承認

③地区活動について

④その他

記念講演 13時~16時

「ORと計量経済学との交渉点」

ケース工科大学 倉谷好郎氏

(2) 第1回支部運営協議会

日時 41.7.8(金) 12時~13時

場所 クラブ九州

議題 支部の運営について

2. 研究会活動

地区別研究会と連携協力し, 会員相互の交流を

ベースに, 研究事例の成果発表を行なった。

3. 会員の状況

41年度入会者 通常会員 35名

内訳 八幡化学5, 八幡製鉄13, 西鉄2,

光製鉄13, 福岡大1, 熊本大1,

II 収支決算

科 目		予算	決算	
収	1. 支部設立準備剰余金	24,130	24,174	
	(1) 設立準備金の剰余金	24,130	24,130	
	(2) 預金利息	0	44	
	2. 1966年度支部運営費	30,000	30,000	
入	3. 雑収入(銀行預金利息)	0	479	
	合 計	54,130	54,653	
	支	1. 会議費	25,000	19,690
		(1) 支部総会費	20,000	13,250
(2) 支部運営協議会費		5,000	6,440	
2. 研究会費		15,000	0	
出	3. 通信連絡費	3,000	333	
	4. 予備費	11,130	6,195	
	合 計	54,130	26,218	
	次年度繰越金	0	28,435	

備考 繰越金 28,435円 富士銀行普通預金

III 42年度事業計画

1. 研究活動

研究発表会への積極的参加
地区別研究会活動の推進協力
講演会の開催

2. 普及活動と会員の増大

3. 教育活動その他

教育訓練活動
図書文献資料の収集、紹介
大学関係諸団体との連携協同

◎秋季研究発表会の開催について

学会の計画に基づき、今秋の北九州市における研究発表会の開催を準備し、その運営に協力する。

IV 収支予算

科 目		金 額
収 入	1. 前年度繰越金	28,435
	2. 1967年度支部費(本部からの交付金)	48,000
	(1) 賛助会費(2千円×4社)	8,000
	(2) 通常会費(47人)	40,000
3. 雑収入	565	
合 計		77,000
支 出	1. 会議費	40,000
	(1) 支部総会費	30,000
	(2) 支部運営協議会費	10,000
	2. 研究講演会費	20,000
	3. 通信連絡費	3,000
4. 予備費	14,000	
合 計		77,000

注1. 支部費配分基準

- (1) 41年度賛助会費の10%
 - (2) 41年度在籍通常会員数(42.3.31)を基準として、最低20人以内30,000円とし、それ以上20人増の段階区分毎に5,000円加算。
2. 本予算には秋季研究発表会関係予算を含んでいない。

支 部 役 員

役 員	氏 名	勤 務 先・役 職 名	電 話
(日本OR学会副会長) 支 部 長	内 山 辰 丙	八幡製鉄所副技師長	67-0311
(日本OR学会理事) 副 支 部 長	三 上 操	九州大学工学部教授	64-1101
支部運営 協議員	堀 川 映 二	九州工業大学機械工学科教授	87-1931
"	若 林 隆	九州電力(株)管理室調査役	76-3031
"	西 木 俊 彦	八幡製鉄所八幡製造所 標準部工場診断課課員	67-0311
"	瓜 生 精四郎	日本IBM(株)装置工業営業部 第一営業所北九州営業課	54-3031

地 区 別 研 究 発 表 事 例 一 覧

(1) 九州OR共同研究会

(41年度)

回	時 期	場 所	参 加 員	テ ー マ	発 表 会 社
15	41. 5. 28	三菱長崎造船	28	新造船建造時における各種補機台の合理化推進 対策について 造船設計部におけるPERTの応用について 機械化による工程管理改善について	三菱長崎造船 " "

回	時期	場所	参加人員	テーマ	発表会社
16	41. 8. 27	八幡化学	39	当所における I E の概要と今後の進め方 当所における事務機械化の概要について 95%ナフタリンの凝固点向上対策について 当所における P E R T の適用例について 補強設計画の投資順位決定の指標	八幡化学 " " " 八幡製鉄
17	41. 11. 24	安川電機	34	制御装置設計の総合接続表作成機械化について 安川電機計算事務の合理化における P E R T の適用例について 設計技術計算の機械化事例について	安川電機 " "
18	42. 2. 28	西日本鉄道	39	事務機械化と交通量調査 バス代替更新について モンテカルロ法による適正車輛台数の決定方法について	西日本鉄道 " "

(2) 福岡地区 O R 研究会

(No. 1~10)

回	時期	テーマ	発表会社
1	39. 6	研究会の運営について	西鉄(幹事)
2	39. 9	シミュレーションによる在車管理方式の検討	九電
3	40. 6	待合せ問題とシミュレーション	西鉄
4	40. 9	送電線新設工事における中間検査方式の検討	九電
5	40. 12	事務の機械化	西部瓦斯
6	41. 3	整備要員算定に関する一考察 一道路舗装と臨時故障との関係一	西鉄
7	41. 6	配電保守パトロールカーの適正配置並びに受持区域についての検討	九電
		エンジン・オーバーホール工程分析	西鉄
8	41. 9	月間ガス販売量の推定	西部瓦斯
		九電における P E R T の導入状況	九電
		社内教育 E E	西鉄
9	41. 12	D P の応用について	九大・三上教授
		事務機械化と交通調査	西鉄
		台風と災害対策について	九電
10	42. 3	柱上変圧器更新のシミュレーションについて	九電
		C P M について	九大・三上教授
		業務改善について	西鉄

回	時 期	場 所	参加 之員	テ ー マ	発表会社
1	41. 5. 28	東洋鋼板	22	PERTの概要	東洋鋼板
2	41. 7. 16	光製鉄	23	設備標準時間について	光製鉄
3	41. 9. 22	日新製鋼	19	冷延ステンレス鋼板梱包輸送改善事例	日新製鋼
4	41. 11. 22	徳山曹達	20	業績評価の体系とその進め方	徳山曹達
5	42. 1. 21	八幡鋼管	22	構内荷役作業の合理化について	八幡鋼管
6	42. 3. 18	東洋鋼板	21	資材系列事務合理化について	東洋鋼板

(60ページからのつづき)

また,

$$F_k(t) = \sum_{s=k}^{\infty} \alpha_k(s) D_s(t^\beta) \text{ となり, } \alpha_k(s) \text{ は漸化式}$$

$$\alpha_k(k) = a_k(k), \alpha_k(s) = \sum_{r=k}^s a_r(s) - \sum_{r=k}^{s-1} a_r(s-1) \quad (s >$$

$k)$ をみたす。さらに, $M(t) = \sum_{s=1}^{\infty} C(s) D_s(t^\beta)$ が成

立し, $C(s) = \sum_{k=1}^s \alpha_k(s) \quad (s=1, 2, \dots)$ である。また,

数値例として $\beta=1.5, s, k=0, 1, 2, \dots, 10$ に対する $\alpha_k(s)$ および $\alpha_k(s) (s \neq 0)$ の近似値が与えられ, $\beta=1.5, k=0, 1, 2, 3$ に対する $W_k(t)$ 曲線と $M(t)$ のグラフが示されている。 (藤沢 武久)

特別テーマ予告

1968年度春季研究発表会(東京において開催)の特別テーマは次のとおり予定されています。

信頼性

IAOR 会員募集

IAOR (IFORS 発行による国際的なORのアブストラクト)にまだ余裕があります。

会費1年 800 円で6冊配布